

第59回 美声と美貌を備えた 正真正銘の「覆面歌手」

月光仮面の敵役・どくろ仮面のルーツの一つとも言えそうな金色の蝙蝠、『黄金バット』は戦前の昭和5年に紙芝居作品として登場し、日本中の子供を夢中にさせました。その人気にあやかっただけでしょうか、翌年からレコード業界に女性の覆面歌手が登場しました。

昭和6年6月、日本ビクターから『アリラン』でデビューしたのが、金色仮面です（ゴールデンマスク、と読みます）。

クラシック仕込みのソプラノで、たちまちビクターの看板歌手に出世したところで、洋風的美貌とともに正体を明かし、小林千代子の本名で活躍を続けました。

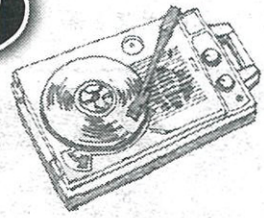
昭和5年から6年にかけて、江戸川乱歩が人気雑誌『キング』に探偵小説『黄金仮面』を連載、また、『アリラン』添付の歌詞カードに掲載された金色仮面の顔写真は、剣戟洋画『奇傑ゾロ』の覆面姿を模しているなど、他分野からの連想がうかがえますが、カラー印刷がさほど普及し

ていなかった時代に金色の効果がどれほどあったのか、私は知りません。昭和8年2月にコロムビアから『浮

名曲カルテ

昭和歌謡と いままで

堀井六郎
絵・松本浦



草の唄』でデビューしたのが、ミス・コロムビアです。東京音楽学校（現・東京芸大）在学中という実力派の彼女は演歌調の『十九の春』からハワイアンをカバーした『桃の花咲く』まで、幅広いジャンルでヒットを連ね、こちらも澄んだ美声で多くのファンを魅了します。

すでに本名・松原操としても童謡などを歌い、二つの名前で活躍していたミス・コロムビアでしたが、昭和13年、松竹映画『愛染かつら』の主題歌『旅の夜風』を霧島昇とのデュエットで大ヒットさせます。映画では主演の田中絹代が歌う映像が流れますが、松原操がアフレコしたも

のでした。人気絶頂の霧島と松原は翌年、華燭の典を挙げ満都の評判となりますが、昭和15年頃から外来語が敵性語とされた影響で、ミス・コロムビア名義での作品がなくなります。煙草のゴールデンバットが「金鷄」と改名されたのも同時期でした。そして終戦を挟んだ昭和27年4月、ミス・コロムビアを踏襲するような覆面歌手の極め付き、コロムビア・ローズが登場します。デビュー曲『娘十九はまだ純情よ』の題名からも、レコード会社の「夢よもう一度」という強い気持ち表われているようです。デビュー時はアイマスクのような仮面で素顔を隠し世間の目を惹き付けますが、同年9月、同曲のヒットに乗じた新東宝の同名映画に素顔で出演、覆面期間は5か月で終了しました。

昭和31年の『どうせ捨てた恋だも』で「捨てちゃえ、捨てちゃえ」と女性の啖呵を聴かせた彼女は、翌年の『東京のバスガール』では制服姿で歌ってガイドさんへの求職率向上に貢献、先頃は『徹子の部屋』で85歳の元気な声で「発車、オーライ」を披露してくれました。制服姿ではありませんでした。